

口腔衛生指導に加えて口腔機能の育成を行った女児の症例

○浜崎 千秋  
医療法人たかかぜ歯科

**【概要】** う蝕予防を主訴として来院した3才0か月の女児にう蝕予防・口腔衛生指導・口腔機能の育成を行い7年の定期管理を経過した症例を報告する。

**【症例】**

初診時：3才0か月（H19.3.2）

主訴：う蝕予防

家族構成：3世代同居

（祖父母・父・母・患児の5人家族）

口腔内所見：上顎前歯部・下顎左右乳臼歯部にCあり

咬合所見：上顎前突（指しゃぶりあり）

**【方法】** 定期的の間食、口腔衛生指導を行い3才4か月時からE|E咬合面にサホライド塗布を行い経過を観察。

4才1か月時、自然に指しゃぶりがなくなり咬合改善。4才9か月時、う蝕の進行がみられた

E|DE咬合面の治療を行い、CR充填をした。9才3か月時、口腔周囲筋に問題が生じてきたため、T4Kを開始。口唇力をあげるためポタンプルを指導。後戻りを防ぐため、10才時に舌のトレーニングを併用し、現在の咬合は良好。

**【考察】** 低年齢児の口腔衛生指導には父・母だけではなく周りの協力も必要不可欠です。口腔周囲筋のトレーニングをするにあたり、患児や保護者とのコミュニケーション、信頼関係の構築、トレーニングを継続することは難しく、また習慣化するためには、患児や保護者だけではなく周りの環境を整え、あせらず少しずつステップアップをはかることが大切になってきます。この患児を通して様々なことを学ぶ事ができました。

女児の口腔管理について

○圃 美里  
医療法人 たかかぜ歯科

**【概要】** 当院に予防検診が主訴で来院した女児（初診2歳0ヶ月）の乳歯列期から永久歯列期（13歳2ヶ月）までの口腔管理についての症例を報告する。

**【症例】**

初診時：2歳0ヶ月（初診日H16.6.14）

主訴：予防検診

家族歴：父、母、妹の4人家族。母はう蝕経験数多く、当院で定期管理中。妹も患児と同様に定期的に検診を受けている。

口腔内所見：う蝕は認められなかったが、前歯部反対咬合（右手3,4指の指しゃぶりあり）で、上唇小帯付着異常が認められた。

**【治療経過】** 4ヶ月毎に定期管理を続け、一年経過。前歯部反対咬合は改善したが、E|にう蝕を確認。サホライド、フッ素塗布、口腔衛生指導を行い定期管理を続けた。永久歯への交換期では、下前歯の歯並びが気になると母親と患児の希望もあり矯正治療を開始した。

上下に拡大装置を装着し、その後上顎前歯部を2×4にて配列。矯正中は清掃不良によるう蝕や歯肉炎のリスクが高くなる事を説明し、装着している装置の種類に応じて必要な清掃器具を用い、指導を行った。4ヶ月毎に口腔内を清掃し、フッ素塗布を実施した。

現在は永久歯への交換が完了し、定期管理を続けている。

**【考察】** 乳児期から定期的に検診に来ていただいたので、う蝕も抑制でき、管理経過も良好である。う蝕のリスクが高くなる矯正期間中も定期的に指導を行い、フッ素塗布も実施してきたので、新しくう蝕ができることもなく管理ができた。これから患児が成長し、生活習慣も変化するため、ステージに合わせた指導・管理を続ける予定である。